七色のかがやき

発行：令和８年８月９日（日）NO. ７　文責：校長　鈴木信二郎

学校 HP　URL　https://www.nagasaki-city.ed.jp/nijigaoka-e/



今日の集会で校長が子どもたちに話した内容です。

今日、令和８年８月９日、長崎原爆の日は 81 回目を迎えます。

校長先生の母は被爆者で、私はいわゆる「被爆二世」と呼ばれています。私は、おじいちゃんおばちゃんや両親から原爆の悲劇や戦争の悲惨さを聞いて育った世代です。しかし、そのおじいちゃんおばちゃんや両親が亡くなると、家庭の中で原爆や戦争について話す機会はほとんどなくなってしまいました。戦争は今、「記憶」から「歴史」へと変わりつつあるのかもしれません。

現在、被爆者の方々の平均年齢は約 87 歳です。戦争を体験された方々は、そのときの出来事が次の世代に伝わらなくなり、忘れられてしまうことをとても心配されています。なぜなら、私たちが戦争の悲しさや苦しさを知らなかったり、忘れてしまったりすると、同じ過ちを繰り返してしまうかもしれないからです。

だからこそ、戦争を経験された方々は、本当は思い出したくないほどつらい体験であっても、文章に書き残したり、自らの言葉で語ったりして、私たちに伝えてくださっています。私たちは、その思いをしっかりと受け止め、平和について考え続けていかなければなりません。

６ 月には、永井徳三郎さんをお招きし、原爆の恐ろしさや永井隆博士についてのお話を聞かせていただきました。私たちはその話を通して、戦争がどれほど悲しくつらいものなのか、そして平和がどれほど大切なものなのかを学びました。また、「平和のバトン」を次の世代へつないでいくことの大切さについても教えていただきました。みなさんも、その後、それぞれの学年で平和についての学習を進めてきたことと思います。

先ほどの 5 年生の発表では、核兵器の現状や原爆投下に至る経緯、被爆からの復興、そして平和への願いについて調べ、考えたことを発表してくれました。とても立派な発表でした。

平和な世の中をつくることは、一人だけの力でできることではありません。被爆された方々や戦争を体験された方々の話にしっかりと耳を傾け、学び続けることは、私たち一人一人にできる大切なことです。

そして、学んだことを心に刻み、「戦争を二度と起こしてはいけない」という平和への願いを受け継ぎ、次の世代へ伝えていくことが大切です。みなさん一人一人が平和のバトンをつなぎ、虹が丘から、長崎から、そして世界へ向けて、平和の大切さを発信していってほしいと思います。

最後になりましたが、夏休みも半分ほどが過ぎました。今年の夏も大変暑い日が続いています。熱中症や水の事故、交通事故などに十分気を付けながら、規則正しい生活を心がけ、残りの夏休みも元気に過ごしてください。そして、始業式にはみなさんの元気な笑顔に会えることを楽しみにしています。

お知らせ

- 教諭　の病休は８月３１日まで延長されています。
- ９月２日（水）は作品展準備等により全学年１３時０５分ごろ下校。